

北川

まちづくり協議会

五月の協議会の内容

三部会の役員を選出を行う予定でしたが、4月に各地区の役員が代わり、それに伴って協議会に出席された方が10名ほどおられました。

役員は、二年間はそのまま残っていただくようお願いはしてありましたが各地区の事情もあり仕方ない事なのかもしれません。ただ、内容の引き継ぎがされないまま出席された方もいて、協議会活動への同意が得られない状況が発生しました。

しかし、この「まちづくり協議会」は、組織の体制がまだ未完成の状況で、これが軌道に乗るまでに二年ほどはかかりそうです。そのため地区から出ていただいている役員には流れが分かるよう二年間は続けていただくために、再度振り出しに戻して、もう一度各地区に地区から出られる役員の確認をさせていただく事になりました。

すでに了解の下で出席されておられる方がほとんどで、お手間をかけて申し訳ないと思っておりますが、再確認という事でご協力お願いいたします。

次世代の北川
地区を担う子
供たちに、今
私達が何を
するべきか

No. 4
2011. 6. 27
発行所
北川会議事務局
(北川公民館)
65-2126
会長
近日決定

「まちづくり協議会」が なぜ必要なのかの説明

平成23年度の国の予算は92兆円、そのうち財源は41兆円、その他収入が7兆円で残り44兆円を国債(借金)に頼る事となりました。「国の借金時計」を見ると、現時点での国の国債による借金が692兆円、地方と合計して891兆円となっています。国民一人当たり683万円の借金を抱えている事になります。

笠岡市に目を移していくと

笠岡市の財政力

財政力指数 0.57

すべて自主財源で賄われるのを
1とした割合

自主財源	地方交付税
57%	43%

財政構造の弾力性

経常収支比率 94.2%
この値が高いほど運営に自由度がない。市町村では75%が望ましいとされている

経常収支 (固定費)

94.2%

このような状況である。

つまり、これが何を示しているかというと、笠岡市は予算のうち43%を地方交付税に頼っている上に、予算の内、94%以上が毎年決まった経費や福祉費や借金の返済に充てられていて、自由になる予算は5%ぐらいしかない。という事です。

このような状況の中で、この先国も借金財政を立て直そうと考えるのは当然です。そうなれば、おのずと地方交付税は当然削減されていく訳です。

笠岡市は少子高齢化をむかえ高齢者福祉に係る予算の割合は膨らんで行きます。しかし、高齢者の福祉費は削減するわけにはいきません。すると、子育て世代や、子供たちにまわる予算はどんどん無くなっていきます。

そこで、笠岡市は市内24地区で「まちづくり協議会」を作ってもらい、地区にどの様な行政サービスが必要なのかを明確にし、無駄のない効率的な行政サービスを行おうと考えた訳です。

その中には、地域で助け合えば解決する事もあるし、地区からの政策としての提言で「高齢者の健康管理」によって元気でいたただくことでの福祉費の削減もあるし、地域の産業(例えば朝市等)の活性化による収入増も考えられる仕組み作りを今からする事によって、そうなった時への対応できるシステムにしてあれば夕張のようにはならなくて済む訳です。

初めは大変なことは承知してはいますが、これを軌道に乗せる事が今北川に住んでいる人たちの次世代への責任だと思えます。

次回案件

協議会設立へ向けての

日程について

次回の協議会開催日

日時 七月十六日(土)

午後七時三〇分より

場所 北川公民館

【七月九日の予定が十六日に

変更になります】